

【普通作物】の【少雨・干ばつ】対策について <7月>

農業経営支援課

【早期水稻】（出穂期～成熟期）

（1）予想される被害状況

- ① 不稔や登熟不良が発生し、品質低下や減収となる。
- ② いもち病や紋枯病が発生しやすくなる。

（2）事前対策

- ① 水系毎に配水計画を定め、効率的に給水する。
- ② ほ場内に通水用の溝やポリチューブ、波板等を設置し効率的に配水する。
特に出穂期直後は、走り水程度でも給水に努める。
- ③ 海に近い河川や地下水から給水する場合は、海水の混入に注意する。
- ④ いもち病や紋枯病の発生に注意し遅れないように防除する。

（3）事後対策

- ① 海水の混入があった場合は、真水の給水に努め塩分濃度低下を図る。
- ② 土壤乾燥が続いた後に、急に湛水すると青立ちが発生する場合がありますので、間断かん水で管理し徐々に湛水に慣らす。

【普通期水稻】（分けつ期～幼穂形成期）

（1）予想される被害状況

- ① 分けつの遅れや穂数不足が生じる。
- ② 稲の活力が低下すると、いもち病が発生しやすくなる。

（2）事前対策

- ① 水系毎に配水計画を定め、効率的に給水する。
- ② ほ場内に通水用の溝やポリチューブ、波板等を設置し効率的に配水する。
- ③ 海に近い河川や地下水から給水する場合は、海水の混入に注意する。
- ④ 中干しは、穂数不足や水持ち低下の懸念がある場合は軽度で行う。
なお、逆に過繁茂は水分蒸散量も増すので、生育をみて適度実施する。
- ⑤ いもち病の発生に注意し遅れないように防除する。
- ⑥ 穂肥施用時は、湛水となるように給水に努める。

(3) 事後対策

- ① 残草が多い場合は、中後期除草剤で除草する。
- ② 海水の混入があった場合は、真水の給水に努め塩分濃度低下を図る。
- ③ 土壌乾燥が続いた後に、急に湛水すると青立ちが発生する場合がありますので、間断かん水で管理し徐々に湛水に慣らす。

【大豆】(播種期～生育期)

(1) 予想される被害状況

- ① 土壌水分が不足すると発芽不良となる。
- ② 発芽後の生育が不良となる。

(2) 事前対策

- ① ほ場に入水や散水が可能な場合は、適度に土壌水分を高めてから耕耘し、播種作業を行う。
播種直後に畦間に入水を行う場合は、昼間の高温時に入水すると種子の腐敗が生じやすいので、夕方以降に行う。通水後は速やかに排水する。
なお、通水は過剰に行うと過湿となり発芽障害を起こすので注意する。
- ② 土壌が乾燥している場合は、播種はやや深めにして覆土を鎮圧する。
- ③ 雑草が水分を収奪するので、除草剤や中耕・培土で除草に努める。
なお中耕は乾燥が促進することもあるので、時期や深さを考慮して行う。

(3) 事後対策

- ① 発芽不良で欠株が多かった場合は、追播きや再播種を行う。